

平成30年度 学校評価における自己評価の評価項目及び評価基準等

【本年度の重点目標】

- 1 携帯電話等の正しい使い方の定着を図る
- 2 創造型実践技術者の育成を図る
- 3 自らの授業力向上を図る
- 4 常に生徒との信頼関係を意識した教育活動を図る
- 5 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくりに努める

1 携帯電話等の正しい使い方の定着を図る

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
生徒指導部	携帯電話等の使用におけるマナー向上	生徒指導の実践(教員)及び生徒のマナー向上(生徒の姿勢)	正しい使い方の定着を実践できた教員の割合、学校生活にしっかり取り組んでいる生徒の割合(教員へのアンケート調査)	A 80%以上	なし	A	多くの先生方の使用規定における改善の取り組みが実践できたことで、概ね生徒たちはしっかりと取り組んでいるとの回答が多かった。	概ね改善がみられているという解答が多かった。今後も継続的に取り組み、使用規定の定着を図っていくことが重要である。
				B 70%以上				
				C 60%以上				
				D 60%以下				
1学年	携帯電話等のマナー向上	規定違反者の減少	規定違反者数	A 8人以下	なし	D	規定違反者数は26名であったが、昼休みの巡回指導などを行った結果として、指導を受けた生徒が増えてしまった。指導を続けることで、生徒たちのルールを守る意識は高まりつつあると感じる。	
				B 9人～16人				
				C 17人～24人				
				D 25人以上				
2学年	携帯電話等のマナー向上	規定違反者の減少	規定違反者数	A 8人以下	なし	B	規定違反者数は10名であった。全体的には、しっかりと守れている傾向が見受けられる。指導を受けた生徒も二回目の指導は受けておらず、生徒たちのルールを守る意識は高まっていると感じる。	今後も継続的に、HRでの注意喚起や巡回指導を定期的に行い規定を守ることの重要性を伝えていくことが重要である。
				B 9人～16人				
				C 17人～24人				
				D 25人以上				
3学年	携帯電話等のマナー向上	規定違反者の減少	規定違反者数	A 8人以下	なし	C	2学期以降、携帯電話等の使い方について指導を受けたことがある生徒が18名、のうち4名が2回指導を受けている。年度当初からHRなどで注意喚起を促すことにより、マナー向上につながっている。	継続的に、HRなどで注意喚起を促すことはもちろん、昼休みの巡回指導を行い、生徒たちのマナーを守ろうとする意識を高めたい。
				B 9人～16人				
				C 17人～24人				
				D 25人以上				

2 創造型実践技術者の育成を図る

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
教務部	学校行事の精選	見直した行事数とその内容	行事検討回数 年度末	A 5つ以上改善できた	なし	B	・学校祭を隔年実施へ ・球技大会5月実施へ ・遠足を工場見学会へ	今後もスリム化を図ることで、行事実施の意義を考えていきたい。
				B 3つ以上改善できた				
				C 1つ以上改善できた				
				D 1つも改善できなかった				

学習指導部	望ましい学習環境の確立	各教員によるクラスごとの生徒の授業に臨む態度(姿勢)	授業にしっかり取り組んでいる生徒の割合(教員へのアンケート調査)	A 80%以上	なし	A	昨年度の同様の調査における割合より改善がみられた。	クラス・教科・授業形態による授業態度の差が大きい。今後も継続して指導方法を工夫していきたい。
				B 70%以上				
				C 60%以上				
				D 60%未満				
特活指導部	生徒会行事の充実を図るための生徒の自主的な行動と行事の見直し	生徒会行事への積極的参加 ※役員は行事運営に積極的に関わられたか	生徒会行事(運営)に積極的に参加できた生徒数	A 90%以上	なし	B	現生徒会での大きな活動は体育祭で終了となった。今年度は定期的集まる機会を設けたことで帰属意識が高まり、意欲的に活動できる生徒が増えた。	継続的に取り組んでいきたい。また、部活動や資格取得に意欲的な生徒も多く、役員の数数を検討するなど、過度な負担とならない体制を考えたい。
				B 70%以上				
				C 60%以上				
				D 60%未満				
生徒指導部	交通安全意識の向上	自転車及び原付二輪車における安全運転(ルール・マナー)の意識向上	交通事故件数状況前年度比(年度末)	A 減少	なし	A	例年、1学期(5月～6月)に交通事故が多い傾向にある。昨年度の傾向を踏まえて啓発に努めた。本年度は原付の事故については報告されていない。	(H29:14件H30:6件) 継続的に取り組んでいきたい。特に1学期に交通事故防止の啓発に努めていく
				B 同数				
				C 増加				
				D 1.5倍以上増加				
進路指導部	キャリア教育の充実	学年ごとの進路講話、自由参加の仕事学習会の実施	年間の実施回数	A 10回以上	なし	B	3年間を通した、進路ガイダンスの内容見直し。	学校独自のもの、外部業者に委託するもの、公共機関に委託するものをうまく組み合わせたい。
				B 9～7回				
				C 6～4回				
				D 3回以下				
健康安全指導部	疾病の予防及び健康への意識向上	健康に関する情報の提供状況	保健だより及び健康についての情報提供資料の発行・情報発信回数	A 15回以上	なし	B	主に生徒に向けて、その季節や行事を捉え、情報発信(ヘルスレター)を発行し、注意喚起を図ることができた。	熱中症、インフルエンザ等の感染症についても、周囲の状況を把握しながらできるだけ早めに注意喚起するなど、職員の協力を柄ながら情報提供に努めたい。
				B 12～14回				
				C 9～11回				
				D 8回以下				
工業管理部	ものづくりを通して課題解決力の向上と、社会が求める人材育成を図る	各種工業関係大会への積極的参加	大会での上位入賞数・年度末	A 前年度より3割以上多い	なし	C	入賞数が7つと減ってしまった。若手教員が研修会に積極的に参加したことを指導力に活かしていきたい	外部の指導をもう少し取り入れ上位入賞を目指したい
				B 同数～3割				
				C 3割未満				
				D 2割未満				
機械科	専門的技術の習得と努力する姿勢の育成	各種資格試験へのチャレンジ	指導方法を改善しさらに高い合格率と高度な資格試験に挑戦させたい	A 75%以上	評価時期	A	機械科の生徒がチャレンジした資格受験者は延べ235名合格者は181名、合格率77.0%	指導方法を改善しさらに高い合格率を目指したい。また、高度な資格にもチャレンジさせたい
				B 65%以上				
				C 50%以上				
				D 50%未満				
生産機械科	自ら考え技能向上に取り組む人材の育成	各種検定・大会等への参加	合格率・大会成績結果	A 上位3位以内(合格率8割)	なし	B	計算技術検定3級、品質管理検定4級共に受験者全員合格	その他の検定試験については前年同様の合格率となった。アイデアロボット大会、マイコンカーラリーについても上位の成績が取られるよう指導の改善を進めていきたい。
				B 4位～6位(合格率7割)				
				C 7位～9位(合格率6割)				
				D 10位以下(合格率6割未満)				
電子科	資格試験合格のため適切な支援を行い、より高度な資格に挑戦させる。	家庭学習の習慣化を目指し、適度な課題等を与える。	資格取得の合格率	A 70%以上	なし	A	各種資格受験者延べ238名、合格者数延べ169名で、71%の合格率でした。	今後も多くの資格へのチャレンジを目標とさせたい。
				B 60%以上				
				C 50%以上				
				D 50%未満				

建設科	がんばれる生徒の育成	各種資格試験の受験	各種資格試験の合格率	A	70%以上	なし	A	各種資格試験の受験者数は延べ201名、合格者数は延べ165名であり、合格者数の割合は82.1%であった。	今後も生徒の各種資格試験に挑戦する意欲を高めていきたい。
				B	60%以上				
				C	50%以上				
				D	50%未満				
建設科	5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動の推進	実習等の5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動の状況	安全で効率的に作業が行えるように実習等の環境づくりやルールづくりがされているか点検をする。	A	実践されている	なし	B	実習前の服装指導を行い、作業前の注意喚起を行っている。実験や実習後に清掃の時間をとれるように授業展開をしている。	怪我や事故防止のため、実習に適した服装を徹底させることを継続していく。 乾燥後の実験器具や廃材が置きっ放しになっていることがあるので、注意をしたい。
				B	ある程度実践されている				
				C	あまり実践されていない				
				D	実践されていない				
1学年	基本的生活習慣の確立	出席率・遅刻率	出席率99%以上・遅刻率3%以下を目標値とする・各学期ごと	A	目標値クリア	なし	A	1学期の出席率99.30%、遅刻率0.15% 2学期の出席率99.73%、遅刻率0.45%	ほぼ同じ生徒が遅刻や欠席を繰り返しているため、担任や科長指導などの段階的指導を行うことで、基本的な生活習慣の確立を図っていきたい。
				B	90%以上				
				C	80%以上				
				D	80%未満				
2学年	基本的生活習慣の継続	出席率・遅刻率	出席率99%以上・遅刻率3%以下を目標値とする・各学期ごと	A	目標値クリア	なし	A	1学期の出席率99.45%、遅刻率0.46% 2学期の出席率98.96% 遅刻率0.45%	遅刻については、ほぼ同じ生徒が繰り返している。欠席については、体調不良での複数の生徒である。今後も、継続的に指導して、基本的な生活習慣の確立を図っていきたい。
				B	90%以上				
				C	80%以上				
				D	80%未満				
3学年	希望進路の実現	進路実現に関するアンケートを実施	進路実現満足度の調査	A	満足度95%以上	なし	A	あなたの進路決定についてどう思いますか。の質問に、とても満足していると答えた生徒が92名、満足していると答えた生徒が59名で、満足度95.6%であった。	あまり満足していないと答えた生徒が4名、進路決定していないと答えた生徒が3名いる。3名の進路実現に向けて、指導に努めたい。
				B	満足度80%以上				
				C	満足度70%以上				
				D	満足度70%未満				

3 自らの授業力向上を図る

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策	
学習指導部	生徒にとって学び甲斐がある学習活動の推進	生徒の授業に臨む意識(姿勢)	生徒が学び甲斐を感じられるような授業の工夫ができた 教員の割合(教員へのアンケート調査)	A	80%以上	なし	B	一方的な授業ではなく、学び甲斐がある授業づくりの工夫をするように、教える側の意識が変わりつつある。	比較的良好的な結果であったが、学び甲斐のある学習活動の推進に向けて、研鑽していきたい。
				B	70%以上				
				C	60%以上				
				D	60%未満				
工業管理部	教職員が常に知的好奇心を持ってスキルアップを図り、指導力の向上を目指す	スキルアップがはかれる各種研修・講習会への参加	工業科職員の研修参加率・年度末	A	A:75%以上	なし	B	夏休み中の各種研修や工業部会主催の研修会に工業科職員が積極的に参加し、実習や座学での指導力向上に活かしている。参加率72.4%	今後も引き続き技術技能向上のため技能検定の受検や研修会に参加し指導力向上に努めたい。
				B	B:65~75%未満				
				C	C:50~65%未満				
				D	D:50%未満				
機械科	授業力向上のために専門性をスキルアップする	工業関係研修会への参加	機械科職員の研修・講習会への参加率	A	A:85%以上	なし	B	工業部会及び全工協主催等の各種研修会に7名中5名が参加した。	各自目標を持って研修会に参加しスキルアップを図っていきたい。
				B	B:70~85%未満				
				C	C:50~70%未満				
				D	D:50%未満				

生産機械科	専門的知識・技術の習得	各種研修会・講習会等への参加	教員の研修会参加回数の合計	A A:5回以上	評価基準	B	全工協、工業部会等の参加延べ回数5回	今後とも教員の技術・技能の向上のため研修会参加を促していきたい。
				B B:4回以上				
				C C:3回以上				
				D D:3回未満				
電子科	専門的知識、技術の習得	専門的研修、講習会、発表会等への参加	参加回数の計 年度末	A A:5回以上	なし	A	全工協、専門研修、工業部会等の研修延べ回数11回	教員の研修参加に今後も呼びかけていきたい。
				B B:4回以上				
				C C:3回以上				
				D D:3回未満				
建設科	わかる授業の実践	講習会や研修会などへの参加回数	参加回数の合計	A A:5回以上	なし	A	7名が講習会や研修会に延べ11回参加	指導力向上のために様々な研修に参加をする。
				B B:4回以上				
				C C:3回以上				
				D D:3回未満				

4 常に生徒との信頼関係を意識した教育活動を図る

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
教務部	情報発信の増加	全職員への情報発信促進活動 (ホームページ、一斉メール、保護者通知等)	年間の発信促進活動回数 年度末	A 毎日促進できた	評価基準	B	行事報告を勿論のこと、今後の予定や生徒からの記事投稿が増加してきた。	限られた教員や部署からの投稿が目立つため、全職員が発信する意識を高める環境づくりを進めていきたい。
				B 週に1度以上				
				C 月に1度程度				
				D 学期に1度程度				
学習指導部	生徒理解に立った教科指導による基礎学力の確実な習得	生徒の実態を考慮した教科指導の実践	生徒理解に立った教科指導を実践できた教員の割合(教員へのアンケート調査)	A 80%以上	なし	A	昨年度より、生徒理解に立った教科指導を実践できた教員の割合が大幅に増加した。	今年度は、特に良好な結果であったが、生徒理解に向けて、授業評価アンケートや校内授業公開期間のさらなる活用を喚起していきたい。
				B 70%以上				
				C 60%以上				
				D 60%未満				
生徒指導部	チーム支援体制の確立	生徒理解に基づく生徒指導の実践	生徒理解に立った生徒指導を実践できた教員の割合(教員へのアンケート調査)	A 80%以上	なし	B	特別指導(H28:28件<H29:18件<H30:14件)概ね実践できたとの回答が多かった。昨年度より特別指導の件数も減少している。	特別指導の件数が減少傾向にはあるが、学年・科との連携を密にして、これからも未然防止が図れるように支援体制を強化していきたい。
				B 70%以上				
				C 60%以上				
				D 60%未満				
進路指導部	進路情報の提供	進路情報が生徒に適切に伝わるように、データベース化を進める。	データベース化できた項目数	A 5つ以上できた	なし	B	求人票や就職進学を受験報告書をデータベース化し、職員の誰でもみられるようにした。	生徒が進路室で自由に閲覧できるように、コンピュータ機器を整備したい。
				B 3つ以上				
				C 1つ以上				
				D 1つもできなかった				

健康安全指導部	環境美化の充実	清掃状況の確認(校舎内の美化:本館HR、廊下、階段、トイレ、昇降口)	状況を評価(5~1段階)し、年度末における合計を評価	A 4点以上	なし	B	適宜、清掃分担区の担当教員指導の下に常に清掃が行われ、現状が保たれる状況であった。学期末には、教室の床ワックス掛けも実施できた。	主に、昇降口付近では上履きと下履きが明確に区分できないところがあった。雨天時などは棟内まで汚れてしまうことも多く、改善の手立ても必要と思われる。
				B 2.5~3.9				
				C 1.5~2.4				
				D 1.5未満				
渉外部	開かれた学校づくり	HPを活用した広報活動	HPへのアップ回数・年度末	A 5回以上	なし	A	行事のたびに報告記事を掲載し、PTA活動を理解してもらい機会が増えるように努力している	HPへの掲載回数を増やしているが、協力してくれる保護者の数にあまり変化が感じられない。
				B 4回以上				
				C 3回以上				
				D 2回以下				
1学年	学期ごとの面談の実施	面談の回数	各担任に面談の回数の確認	A 各クラス3回以上実施	評価基準	B	各クラスで面談を実施することで、担任が生徒の不安や悩みなどを把握し、不登校や問題行動などの未然防止につなげることができた。	全員一律同時期に実施する面談と、時期によって必要な生徒のみを実施する面談とを、うまく使い分けていくことで、面談実施の成果をよりあげていきたい。
				B 各クラス2回以上実施				
				C 各クラス1回以上実施				
				D 実施していない				
2学年	学期ごとの面談の実施	面談の回数	各担任に面談の回数の確認	A 各クラス3回以上実施	評価規準	A	4月、6月、11月に個人面談を実施した。面談実施中は、クラス全体が落ち着いて生活しているように感じた。また、生徒の考えを把握する上でも効果的であると感じた。	目標値の面談回数にとらわれず、定期的に何回も面談を行うことで生徒を把握し、不登校や問題行動を減らしたい。
				B 各クラス2回以上実施				
				C 各クラス1回以上実施				
				D 実施していない				
3学年	学期ごとの面談の実施	面談の回数	各担任に面談の回数の確認	A 各クラス3回以上実施	評価規準	B	3年生なので、進路実現が最大の課題である。時には、保護者を変えた三者面談を実施することで、本人の意欲と保護者の理解を得ることができた。	進路決定後、意欲に欠ける生徒が見受けられる。卒業まであとわずかであるが、短い時間であっても面談を行い、生徒の意欲の向上に努めたい。
				B 各クラス2回以上実施				
				C 各クラス1回以上実施				
				D 実施していない				

5 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくりに努める

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
特活指導部	各々の役割を明確にし、円滑な運営と情報共有に努める	各係の役割の明確化と連携	年度末に各係へ状況調査	A 8割以上の係でできた	年度途中の為参考の評価	C	新体制(生徒会顧問含め)となり、係の先生も多く入れ替わった中では比較的できた点もあったが、準備が後手に回るなど連携不足も多くあった。	早い段階からの情報収集で経験不足を補う意識と連携を図れる体制を整えたい。
				B 7割以上の係でできた				
				C 6割以上の係でできた				
				D 6割未満だった				
進路指導部	部内役割分担を明確にし、円滑な運営に取り組むとともに、情報共有に努める	各係の仕事の分担と内容の明確化	年度末において、各係への調査を行う	A 全ての係でできた	なし	B	就職指導と進学指導の役割分担ができた。公務員模試の校内での実施や、進学模擬試験の実施につながった。	外部対応が少ない人数に集中してしまうので、年間を通して当番制で進路室に待機してもらう。
				B 半数以上の係でできた				
				C 半分以下だった				
				D あまり改善できなかった				
工業管理部	各科の特徴を生かし、学科間連携を充実させる	工業関連行事等での協力体制の状況	工業科職員へのアンケート・年度末	A 75%以上の職員ができた	なし	A	工業科職員の校内における協力体制はアンケート結果から良好な状況である。29名中28名が出来ていると答えている。	今後も今年度と同様の状況が継続できるよう、特に科長間では密にコミュニケーションをとっていきたい。
				B 65~75%未満				
				C 50~65%未満				
				D 50%未満				

1学年	各担任間で連携を図りながら、円滑な学年運営に取り組む	情報共有	各担任への調査	A	情報共有ができた	評価基準	B	普段から生徒に関する情報共有に努め、毎月の学年主任会の内容も各担任に伝達することで連携を図った。	定期的に担任打合せを実施するなどして、より密な情報共有や連携に努めていきたい。
				B	情報共有がほぼできた				
				C	情報共有が不十分である				
				D	情報共有ができていない				
2学年	担任会を通して連携を図りながら、円滑な学年運営に取り組む	情報共有	担任会実施	A	情報共有ができた	評価基準	A	基本的に毎週月曜日の1時間目に担任会を実施して、学年の連携を図った。	基本的に毎週月曜日の1時間目に担任会を実施することで、学年の連携や伝達事項などしっかりとできた。また、大切な行事を行う上でもスムーズな運営を行うことができた。今後も継続していきたい。
				B	情報共有がほぼできた				
				C	情報共有が不十分である				
				D	情報共有ができていない				
3学年	各担任と連携を図りながら円滑な運営に取り組む	情報共有	各担任への調査	A	情報共有ができた	評価基準	B	日頃からコミュニケーションを取ることで、十分とはいえないが、情報の共有に努めることができた。また、毎月の学年主任会の内容を各担任に伝えることで、連携を図ることができた。	月1回のペースで打合せを持ち、情報の共有や連携を図りたい。
				B	情報共有がほぼできた				
				C	情報共有が不十分である				
				D	情報共有ができていない				